

私保連 とくしま



発行：徳島県私立保育園連盟
 発行人：会長 大和 忠広
 〒770-0943
 徳島市中昭和町1丁目2番地
 徳島県立総合福祉センター内
 tel. 088-625-2040
 fax. 088-656-1173
 印刷：グラント印刷㈱



園庭築山



築山にて



水遊び



季節行事七夕



園庭とろんこ



遊戯室にて

気延のもりの保育園
 (17面に続く)

もくじ

徳島県こども未来部子育て応援課長挨拶	P2
県私保連 会長挨拶	P3
部会報告	P4
『立った!』	P6
徳島県青年保育者連合会	P7
全国私立保育園研究大会栃木大会	P8
新園(所)長紹介	P10
いただきますを支えて	P16
高校ほか、学生の皆さんへ	P18

御 挨 拶



徳島県こども未来部 子育て応援課長 玉岡 あき子

徳島県私立保育園連盟の皆様には、日頃より、本県の子ども・子育て支援行政、とりわけ保育行政の推進に多大なご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和6年6月に、厚生労働省より発表された、「令和5年・人口動態統計」によりますと、本県の「出生数」は、過去最低の「3,903人」と、初めて4千人を割り込み、少子化の対応は、待ったなしの状況となっております。

こうした中、国においては、少子化対策の強化に向けて策定された「こども未来戦略」の「加速化プラン」において、幼児教育・保育の質の向上を施策に掲げ、「量の拡大」から「質の向上」へと政策の重点を移すこととし、更なる処遇改善に取り組むとともに、75年ぶりに職員配置基準の改善が行われたところです。

また、令和6年6月には、改正子ども・子育て支援法が成立し、「こども誰でも通園制度」の創設など、全てのこども・子育て世帯を対象とする支援の拡充が図られることとなり、各施設においても職員の配置等、対応が迫られる状況となっております。

これを受け、県におきましても、年度途中の保育人材不足に対応する事業など、市町村の主体的な取組を支援する交付金事業の推進に加え、更なる「保育士・保育所支援センター」の機能充実により、保育人材の確保などの取組を進めているところです。

今後も、国の動向を注視しながら、市町村との緊密な連携の下、保育人材の育成やスキルアップをはじめ、子育てを取り巻く多様な課題に積極的に取り組んでまいります。

皆様方におかれましては、今後も、「安心して子どもを生み育てることができる徳島」の実現に向け、県の取組に対し、より一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



暑い夏を終えようとするときに



徳島県私立保育園連盟 会長 大和 忠広

本当に今年の夏は例えようのない、記憶の中で同じようなものを見つけれない暑さの夏でした。「おはようございます。」「こんにちは。」の挨拶よりも先に口に出る言葉は、「暑いですね。」であったように思います。その後で、「こんにちはやね。」言葉を繋いでいたように思います。そしてお互いに暑さを恨む言葉が続くのでした。そんな夏も処暑を過ぎると朝夕に秋の到来を感じるのは、私だけの感傷なのでしょうか。ともあれ季節は秋へと歩みを始めています。南の海では台風が日本列島を伺っています。ちなみに「サンサン」と名付けられた台風だそうで、太陽光が降り注ぐような名前です。やっぱり暑さは最高潮です。ため息、ため息の日々が続きます。

さて、県私保連は、全国大会を終えて1年が過ぎました。6月には会員の皆様のご協力により、栃木大会に70名余の先生方の参加を得ることができました。栃木大会実行委員長に、全国大会は開催年だけでなく、その前年、当年そして次の大会にも協力する必要があると力説してきました。それも皆様のご協力と結束力が理解され実行された賜物なのです。本当にありがとうございました。高山での全国大会でも徳島の心は引き継がれるものと信じます。

県私保連では、全国大会で培った団結力と和をもって不適切保育の根絶と、保育の質の向上を目的として研修会等を実施しています。当連盟、県保育事業連合会を中心にして著名な先生方のご講演、ご講義の会を実施計画しています。勉強することは自分の気持ちの持ちようなのです。忙しいから、職員が足りないから、保育の質が下がっても、今、その腕の中で育ちゆく子ども達に、私達は頑張ってますといえるのでしょうか。保育園、こども園運営の宿命の中での葛藤かも知れません。しかし、気持ちの強さと組織の団結力です。良い知恵の絞れる大人の集まりですから。

秋に向けて、災害を主題としての研修会を計画しています。また、一年を通して、保育の質の向上を目指して、第三者評価を受ける施設の負担を軽減するために、京都府の評価方法を取り入れて、短い時間で行える方法を取り入れています。興味ある方は、担当課、事務局まで問い合わせてください。

全私保連では、国に対して色々な要望を挙げています。その中でより身近なものとして、職員定数の問題があります。4・5歳児が30:1から25:1の人員配置になりましたが、調理員は戦後79年を経ても変わりません。このことに全私保連を先頭に保育三団体の要望に調理員の人員配置の検討が入りました。現在保育所、認定こども園の自園調理において、調理員の配置は、あってなきがごとくのように思われるのです。自園調理を実施している施設においてその多くがプラス1の人員増配置が普通になっているように思えるのです。給食は、子ども達が口に入れることから始まります。子ども達の育ちを語るときに、必ず安心で安全な給食の価値を忘れてはなりません。なぜプラス1なのかを考え、答えを出し、ご協力ください。1人で調理をすることは人権にもかかわることなのです。そんな施設運営ってありますかね。考えましょう。

こども誰でも通園制度が、世間を騒がせています。日本に生まれて6カ月を過ぎると、全ての乳児に就学前の施設を利用する権利が生まれるという崇高な制度です。私たちは、措置費を頂いた時代を経て、現在の保育制度へと進んできました。その過程で培ってきたことは、家庭で面倒が見られない子ども達を保育園で保育するという事に慣れ親しんできました。そこにまた幼保一元化の流れのなかで、一号認定なる、保育の必要な事由に該当しない3・4・5歳児の子どもが入園し、この度は、誰でもが利用できることになるのです。あの澄んだ瞳の子ども達の全てに生まれる権利として必要なことなのでしょう。図らずも幸せに成長することを拒まれる子ども達にとっても必要なことなのでしょう。色々条件は提示されています。必ずしも私達にとって良い条件とは見受けられません。しかしながら、私達児童福祉事業を営むものとして、頑張って受け入れなければならないことなのかもしれません。人口減少化、そして子ども、幼児、乳児の減少していく社会の中で、そこで働く人材も減少していく中で、私達は、全ての子どもに私達の培ってきた保育力を提供するために日々研鑽しなければならないのです。

季節は夏から秋へと何もなかったかの如く移っていきます。私達徳島県私立保育園連盟の仲間は、変わりゆくもの、変わっても仕方ないもの、決して変えないものを精査して明日の施設運営を模索しなければならないのです。子ども達は少なくなっても無にはならないのですから。暑い暑い夏の終わりに。

部 会 報 告

総 務 部

後藤田 英司

今年度、1万円札の肖像が渋沢栄一に代わりました。日本資本主義の父と呼ばれ、徳島とも藍染等を通じて縁のある人物です。道徳経済合一の理念のもと、民間に在って様々な事業を構想立案し、同志を募り、万難を排して実現させていきましたが、福祉・医療・教育なども大きな柱の一つでした。未だ福祉という言葉さえ覚えなかった時代に、子ども達のために率先して寄附を含め環境を整え支えていきました。なかでも、養育院長職は、半世紀以上にわたり務め、当時において実現に向けて構想していたと知られているのが、保育園でした。その志からつづく道程のなかを、今、私達連盟各園もまた歩いています。理想を共にする同志として団結し、現実的に堂々と前進させていった先人の、その志に思いを致すのに良い機会ではないでしょうか。

総務部は、私達連盟各園の団結と前進を支える要として、これからも互いに敬意をもって全うしてまいりたいと考えています。例えば、日々諸手続をしていくなかで、具体的に何を準備すれば良いのか分かりにくいものなど、困り事もあるかと存じます。そうした声に応えて、私達連盟各園のための手引書を整備していきたいと考えています。先人の志や、これまでの歩みを忘れずに、日々の事にあたり、更に道を繋いでいければと気持ちも新たにしているところです。今年度も総務部を宜しくお願いいたします。(めだか保育園)

調 査 部

原田 真三子

令和6年度調査部では、他の部会への異動と新たに穴吹かもめこども園の加入により、31園の皆様方と活動を進めてまいります。今年度は、業務改善と少子化について、また園児数に対しての栄養士・調理員の人数は十分確保できているかという3つの項目でアンケートを作成し、問題点を調査いたします。

そして、結果に基づき、分析・考察を行い、課題改善につながる活動にしたいと考えています。私立保育園連盟に加入されています全園の皆様にはご協力のほど、よろしくお願いいたします。

アンケート実施とともに、7月から9月にかけて、5園の施設見学を計画し、進めています。お忙しい中、快くお引き受けいただき感謝しています。各園の見学をさせていただき、情報交換や情報共有を行う等、保育の質の向上につなげたいと思います。

また、各園の状況に合わせて登降園や電子決済などのシステムを導入し、少しずつではありますが、ICT化に取り組んでいる園も増えてきています。保育者の自発性を引き出すために、業務負担を軽減し、時間内に仕事を終わらせることで、気持ちや時間にゆとりをもって働くことができると思います。業務の効率化を利点としながら、無理なくICT化を進められるよう職場全体での工夫が求められます。働きやすい環境づくりをめざし、子どもの主体性を育む保育に注力できるよう今後も日々努力していきたいと思っています。

今年度の調査部の活動にご協力とご指導をいただきますようよろしくお願いいたします。(久勝かもめこども園)

ワンダーブックの保育用品

世界文化社販売株式会社

〒770-0802 徳島市吉野本町3丁目16番地2
TEL(088)653-7607
FAX(088)653-7874

Gakken すべては子どもたちの笑顔のために

(株)学研エリアマーケット徳島営業所

☎770-0046 徳島市鮎喰町1丁目24番3

Tel : 088-638-0017

Fax : 088-638-0019



保育研修部

黒田 信雄

令和6年度研修部は、30園で活動することとなりました。施設長の交代や新規に加わった園もあり、新たな感性を期待してのスタートとなりました。

さっそく研修部として、8月2日には、総合福祉センターで武庫川女子大学教授・倉石哲也先生をお迎えして職員研修会を開催しました。中央のさまざまな検討会で座長という大事な務めを果たされている先生で、今回の「こども大綱」や「こども基本法」の策定や取りまとめに深く関わっておられる先生のお話は、今までの私達の保育の考え方を根っこから問い直す機会となりました。特に「こども誰でも通園制度」の現状や課題・中央の考え方の説明がありました。暑い中、79名の参加がありました。

その他、研修部活動としては、施設見学を秋に予定しています。2回目の職員研修会は、2月10日に香川大学教授の松井剛太先生をお招きして行います。3月には新任職員研修会を計画しています。それぞれについて、詳しい日程や場所が確定しましたらお知らせいたしますので、ぜひご参加ください。

加盟園の資質向上を目指して、部員協力し合って取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。
(光の子保育園)

**広 報 部**

田中 美彦

日頃より広報誌「私保連とくしま」の発行に際しまして、原稿執筆等のご協力をいただきありがとうございます。

昨年5月に新型コロナウイルスが2類から5類になり、どうなることかと思っていましたが、何度かの波を経て徐々に落ち着きを取り戻しつつあります。まだ、終息した訳ではありませんが、マスク着用率も少しずつ下がり、日常に戻れる日が近づいている気がします。今年度の広報部は、令和6年度定期総会の後、第1回広報部会を行いました。第1回広報部会では、前年度事業報告・会計報告の後、役員改選を行い、令和6年度の役員として、副部長に新しく、いしいキッズの佐藤睦子園長、板東みやま保育園の清水陽子副園長、また会計は前年度に引き続き、みずは保育園の小川優子園長、部長は新しく、みのり認定こども園の田中美彦が選任されました。よろしくお願いいたします。

その後は、今年度の事業計画を話し合い、広報誌「私保連とくしま42号」の発行、2025年のカレンダー発行について協議しました。

「私保連とくしま42号」の協議内容については、9月発行予定とすることや、今年は「全国私立保育研究大会 栃木大会」に徳島県から多くの方々が参加することから、参加報告記事をはやしこども園の百有子園長にお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。その他についても各記事内容の精査や原稿の依頼先の選定を行いました。

2025年のカレンダー作成については、いろいろな意見があり協議した結果、各園から子どもの作品の写真を募集することになり、テーマは「春」「夏」「秋」「冬」のいずれかにしようということになりました。詳しい内容につきましては紙面の募集内容をご確認の上、ご協力賜りますようお願いいたします。

その他の内容につきましても、会員各位是非ご覧いただきまして、ご意見等ございましたら、広報部までお寄せくださいますようお願いいたします。
(みのり認定こども園)

2025年カレンダーに掲載する写真募集!

広報部では、2025年カレンダー（令和7年）に掲載する写真を大募集します。

子ども達が作成した作品をカレンダーに掲載します。テーマは、「春」「夏」「秋」「冬」です。季節ごとに子ども達が作成した作品の写真を送付くださいますようお願いいたします。（カレンダーにのせて可の作品に限る）締切日：11月11日（金）

データを下記の事務局までお送りくださいますようお願いいたします。

提出いただいたすべての写真を掲載することはできない可能性があります。御了承ください。

徳島県私立保育園連盟事務局 shihoren@tokushakyo.jp



「チーちゃん、立った!」喜ぶママ。横で渋い顔のじーじ。

昨年10月に生まれた孫が、この夏休み里帰りで我が家で過ごしています。「這い這い」が5月上旬。「つかまり立ち」が7月上旬。7月末(9ヶ月)には、つかまり立ちをした後、手を放して2本の足で立とうとする姿がよく見られます。2人の兄と比較すると3月程早い発達です。一般的な発達より早く成長することは心情的には喜ばしいことなのでしょうが、各部位の発達から見ると積み残しの部分が多くあるように感じます。

子どもが主体的に活動しようとする原動力は刺激です。幼い子どもは視覚や聴覚、触覚から入ってくる刺激に反応して自分からその刺激に向かって進んでいきます。「ずり這い」、「這い這い」、「高這い」、そして「つかまり立ち」と、目から入ってくる刺激が多くなると共に、「つかまり立ち」では、からだの揺れを感じる前庭覚や転ばないようにバランスを取る固有感覚からの刺激も受けますから「這い這い」のときよりも強い刺激を受けるようになります。子どもはチャレンジャーです。一度、強い刺激を経験すると「這い這い」では満足できなくなり、すぐに何かにつかまり、その感覚を得ようと何度もチャレンジをします。

孫達は、集合住宅に住んでいます。一子目の時は、部屋は片付け、できるだけ刺激の少ない環境を意識しての子育てでしたが、2番目となるとそうはいきません。一子目が床で遊んでいるおもちゃや本などの刺激がある中で、3番目ともなると、もっとたくさんの刺激がある中での子育てとなってしまいます。

今、9ヶ月のチーちゃんです。本来であれば「這い這い」をしっかりして「高這い」へと移っていただいたいのですが、「つかまり立ち」という強い刺激を経験してしまったので、きっと「這い這い」は2ヶ月たらずで卒業し、「高這い」もしないまま「二足歩行」へと進んでいくことでしょう。

今、1歳までに「歩行」ができるようになった子が増えてきています。これからの時代、「這い這い」や「高這い」の経験が少ないのを前提とした保育や養育が求められているのかもしれませんが。

「這い這い」は首や肩、肘の関節や周辺の筋肉、腹筋や背筋が鍛えられ膝をあげる動きが身につきます。「高這い」は足首や手首の関節の可動範囲を広げ動きやすさを高めると共に歩行の基本的な動きを身につけていきます。

早く歩き始めた子どもは、足を広げて左右に重心を移動をさせながら歩くことになりますから、歩幅が狭くからだ揺れるような歩き方になります。二足歩行は人としての生活の基本ですから、子ども達には正しい歩き方を身につけてもらいたいと感じます。



①這い這い



②つかまり立ち



③立って



④立って

徳島県青年保育者連合会 令和6年度 青年会議活動報告

徳島県青年保育者連合会 会長 大和 友就

青年会議 部長 大石 智弘

日保協担当 部長 住友 雅美

あつい暑い、猛暑も一段落でしょうか。園庭を眺めていると、赤蜻蛉がちらほらと飛んでいました。日本の代表的な童謡の一つである、夕暮れ時に赤蜻蛉を見て、昔を懐かしく思い出すという、郷愁にあふれた歌詞がありますよね。

昔を懐かしくという意味では、新型コロナウイルス、徳島大会と、またとない経験を、我々、青年会部員は経験出来たと思っております。この貴重な経験と体感を忘れず、日々精進して行きたいと考えております。

「活動報告」

さて、本年度の青年保育者連合会の活動報告といたしましては、5月17日にグランドパレス徳島にて、総会を実施し、第1号議案から第6号議案（令和5年度事業報告、収支決算、監査報告、令和6年度事業計画、収支予算、役員改選）について、全ての議案について採択されました。

報告事項では、徳島県青年保育者連合会規約、会員状況について報告を行いました。

「全国私立青年会議全国大会」

令和6年9月5日・6日に開催されました、第43回公益社団法人全国私立保育園連盟青年会議東京大会 CORE～こどもたち、ど真ん中～では、徳島県青年保育者連合会から多数の先生方にご出席して頂きました。大会では、さすが大都市“東京”を体感し、研鑽してきた次第です。

参加して頂きました先生方におかれましては、大変ありがとうございました。

(報告 勝浦こすもす保育園 大和 真道)

フレイベル館

保育用品／キンダーブック／児童図書

株式会社フレイベル館 徳島支店

〒770-8007

徳島県徳島市新浜本町2-3-50 坂東新浜ビル3号室

TEL 088-663-6338 FAX 088-663-3396



こども環境の未来をつくる



シャクエツ

徳島店

徳島市末広1丁目4-14

TEL 088-626-2110

FAX 088-626-2416

第66回全国私立保育研究大会栃木大会に参加してきました つながろう! みんなが輝く未来へ ~だいじ だいじ ありのままで~

令和6年6月5~7日

百 有子

大会1日目は、全国私立保育連盟常務理事 高谷俊英氏による「こども政策の推進について」の基調報告の後、「こどもまんなか社会」時代の保育（みんなが輝く未来に向けて）と題して、玉川大学教育学部教授 大豆生田啓友氏より基調講演がありました。今日の子どもの活動や姿・子どもの興味や関心から計画が生まれる、意見表明権（子どもの声を聴く）「あなたは どうしたい？」が大事にされているか等、子ども主体の保育の大切さについてご講演いただきました。

2日目は、第3分科会に参加しました。札幌市東月寒認定こども園の発表では、子どもの気づきに大人が気づくこと、大人の気づきに子どもが気づくこと、その「気づき」に共感しながら日々の生活が彩られ、様々な遊びを展開していく具体的な実践、取り組みの報告でした。

徳島県四国大学附属保育所の発表では、保育所基本理念であるともに育ち、ともに生きるを捉え直し「あそび込み、学び合う保育」の実践を通して事例研究することにより遊びの伝承と保育の関係性について考察された報告でした。

熊本県若草保育園の発表では、「普通にとらわれない、面白い保育（みっしょん）」や「ドキュメンテーションやサークルタイムを有効活用した保育」「小学校入学に向けて必要な力を身に付ける」として1年間を見通した保育に取り組んだ報告でした。

3日目は、石原良純氏の記念講演があり、自身の生い立ちや気象予報士になった経緯など、笑いを交えてお話をしていただきました。

今大会に参加させていただき、主体性を中心とした保育や意見表明権（子どもの声を聴く）の大切さを改めて感じることができました。また、居住地を離れたことで、その地域の文化や特性なども知る良い機会となり、様々な県の方々と保育について話し合うことができたことも、とても貴重な時間となりました。今回学んだことを振り返りながら職員に伝え、これからの保育に役立てていくことができるようにしていきたいと思っています。

（はやしこども園）



幼児の豊かな生活環境をめざす
徳島チャイルド社

電話 **088-674-6050**

FAX **088-674-8336**

〒779-3234 名西郡石井町石井字白鳥230

子どもにやさしい地球を残そう
ひかりのくに徳島有限会社

〒779-3404 徳島県吉野川市山川町川田869-4

TEL 0883(42)2220

FAX 0883(42)6300

〒770-0035 徳島市南佐古5番町2-37

TEL 088(652)0350

FAX 088(655)9066



〔全私保連推奨〕各種団体保険制度



有限会社ゼンポ



公益社団法人
全国私立保育連盟



東京海上日動

ほいくのほけん・こどもえんのほけん

保育施設向け 4月1日～1年間（中途加入可能）

Web
加入
可能

「園賠償責任保険」「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険）」
「職員団体傷害保険（総合生活保険）」など、保育施設における最大
リスクを補償する1番の主力保険制度です。

やくいんのほけん

社会福祉法人向け 8月1日～1年間（中途加入可能）

Web
加入
可能

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費
用等のレピュテーションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人
への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

えんじのほけん

在園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web
加入
可能

「園内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一
の場合の育児費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品
と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

しょうがくせいのほけん

卒園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web
加入
可能

24時間のおケガ等からお守りにすることに加え、学校からの貸出タブレットを
含め個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的
な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

取扱
代理店

有限会社ゼンポ

TEL : 03-3865-3881
FAX : 03-3865-2806



引受
保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

担当課支社：公務二部 文教公務室 TEL : 03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険（レピュテーション費用特約条項付 費用・利益保険）・雇用関連賠償責任保険の
概要・団体総合生活保険（傷害保険）の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の内容は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず
「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

連絡先



公益社団法人全国私立保育連盟指定／東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

TEL 03-3865-3881
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10全国保育会館4階

無制限の動画や写真を通して、園と保護者の絆を深める連絡アプリ

全国私立保育連盟推奨（総代理店）



きっずノート

「きっずノート」は長く使い続けていただけるよう

初期費用0円・追加料金一切なし

すべての機能使い放題／

月額 5,500円(税込)のみ

無料体験実施中! →

お申し込みは
コチラ



ご相談・ご質問はお気軽に

きっずノートサポートセンター

TEL 03-3865-3886

新園(所)長紹介 (園長名五十音順)

つくし保育所

池淵 百合



令和6年4月より社会福祉法人つくし会つくし保育所所長に就任いたしました、池淵百合と申します。つくし保育所、姉妹園の南佐古保育園で、保育士・主任保育士として務めさせていただき、今年度より前川所長の後を引き継ぐ事となりました。「最初は、私に務まるだろうか…」と、不安が大きかったのですが前所長・副所長・職員に助けられながら日々の業務が行えています。

本保育所は、昭和45年6月より開園し今年54周年を迎えました。“子ども達によりよい環境を整え、いっぱい遊んで大きく育つ手助けをしたい”との思いで、私財を投じて土地・園舎・子ども達に必要な物全て個人で購入して開設し、沢山の子供達を送り出してきました。そうして、卒園した子達が父・母になりその子ども達がまた通って貰えている事が嬉しく又保育士として人と人との繋がりの



の大切さを改めて感じる事が出来ています。何をするにもいろんな人の支えがあって出来ることがあるという事を日々実感し、感謝の気持ちを持ち人と人との繋がりをこれからも大切にしていきたいと思っています。前所長・副所長の思いを引き継ぎ、職員と共に協力し今後も子ども達がいっぱい遊んで大きく育つ場所でありたいと思います。まだまだ未熟ではございますが、今後ともご指導お力添えをいただけますようよろしくお願いいたします。

とくしま健祥会認定こども園

坂口 陽子



今年度より、とくしま健祥会認定こども園の園長として就任しました坂口陽子と申します。新たな一步を踏み出した4月1日、「おはようございます!」とドキドキしながら玄関に立った私を、春のそよ風とともに子ども達のはしゃぐ元気な声が包み込んでくれました。心がウキウキし、思わず子ども達がいる部屋へ駆け込んだこと、あの時の感情が記念日の1ページとして心に残っています。

私は、健祥会グループの保育園に就職し、4年前に専門学校健祥会学園保育学科で教員として勤務しておりました。夢と希望に満ちあふれた学生達との学び舎はとても新鮮で、私自身、学生とのアクティブラーニングで学びを深めるなかで、新しい知識を得ることができ、フレッシュな感性を育むことができました。そして今、子ども達との時間を大切に過ごしています。

当園は、自然豊かな環境に恵まれています。目にうつるもの、耳に入ってくる音、鼻先に漂ってくる先にあるもの…すべてを体と心で感じ、乳幼児期の豊かな感性を育む原体験を大切にしています。私達職員は、子どもの気持ちに寄り添い、共感し、五感をたっぷり使って一緒に遊び込むこと、子どもへの温かいまなざしを持ち、子どもの心を育てること、そして保護者の方とともに子どもの成長を喜び合い、安心して預けられる場所であることが私達の役割だと考えています。



職員一同、心ひとつに子ども達の成長を温かく見守り、笑顔あふれる園づくりに取り組み、これからも保護者に信頼される、地域に愛されるこども園としてより一層努力してまいります。皆様からたくさんのアドバイスをいただきながら少しずつ成長していきたいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

市場かもめこども園

須見 美津代



本年4月より、割石前園長から引き継ぎ、社会福祉法人かもめ福祉会市場かもめこども園園長に就任いたしました須見美津代と申します。この度、園長となり緊張と重責、不安でいっぱいだった私を前園長や職員仲間、また保護者の皆さんに助けていただきながら苦手なパソコンと向き合い業務を行っています。何より大きな励みとなるのは毎日元気に登園し笑ったり泣いたり様々な表情を見せてくれる109名の子ども達です。業務で行き詰った時には机から離れ、保育室を見て回り子ども達から元気をいただいています。市場かもめこども園では豊かな環境の中で心身を使って生活・遊びの経験を重ねていくことを保育目標にし、一人一人に即した援助を行いながら「元気」「勇氣」「根気」の3本の木（気）を育みたいと考えています。令和2年開園時よりいつも温かく見守ってくださっている地域の方々との交流では昨年地域の秋祭りの神輿担ぎに招待していただき神輿も協同で作成して神社の境内を練り歩くという貴重な体験をさせていただきました。今年度もいろいろな交流が予定されており楽しみです。



これからも保護者の皆様と子ども達の成長を共に喜び合い地域の方々とのふれ合いを大切にしながら21名職員一同力を合わせて頑張っていきたいと思います。そして、園長になって一番に思うことは、職員みんなが働きやすい職場環境であることを目指して日々業務を行っていききたいと思います。

今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

四国大学附属保育所

竹岡 幸子



本年4月より、前任の福永所長から引き継ぎ、社会福祉法人四国大学福祉会四国大学附属保育所の所長に就任いたしました竹岡幸子と申します。3月末まで県職員として医療・児童福祉行政に携わってきた経験を、今後は保育所運営に活かしてまいりたいと考えています。

当保育所では、“ともに育ち、ともに生きる”を基本理念として掲げ、子ども達一人ひとりの個性を大切に、丁寧な関わり合いの中で自分の思いを素直に表現できる創造性豊かな生きる力を育む保育を行っています。

また、市立図書館、徳島城博物館などの文化施設に加え、城山、眉山、徳島中央公園といった豊かな自然環境に恵まれた立地の強みを生かし、人との関わりの中で心の発達を促すとともに、自立と協調の態度や道徳心の芽生えを培う保育を心がけています。所長就任にあたり、これまで培ってきた当保育所の伝統を受け継ぐとともに、職員と協力し、子どもまんなか社会の実現に貢献できる保育サービスの充実に努めてまいる所存です。



今後とも地域に愛され、信頼される保育所として、運営母体である四国大学との連携を密にし、食育の推進、保育の質の向上等に力を注いでまいります。私保連の皆様には、今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

さくら認定こども園

武知 仁美



本年4月より、清重前園長から引継ぎ、さくら認定こども園園長に就任いたしました武知仁美と申します。前年度までは、副園長として勤務させていただいておりました。

当園は、昭和58年にさくら保育園として開園しました。地域の皆様に支えていただきながら、平成29年に現在の場所に園舎を移し、幼保連携型認定こども園として新たなスタートを切りました。

当園のある石井町は、商業施設と自然環境のバランスが良い、生活がしやすい街です。当法人の石井福祉会は、法人理念として「かかわる全ての人がハッピーになる」を掲げ、0～1歳児は姉妹園のいしいキッズで保育を、2～就学前児はさくら認定こども園で保育を行っています。

当園の保育理念「人生100年時代を生き抜く子どもの育成」として、生活や遊びの中で、様々な活動や取り組みを通して、子ども達の将来に繋がる『生きる力』を育てて行けるよう園全体で保育に取り組んでいます。

不慣れな事ばかりでご迷惑をお掛けする事もあると思いますが、ご指導の程よろしくお願いいたします。

かがやき保育園

多田 美穂



本年4月より北島町に開園し、社会福祉法人和田島福祉会かがやき保育園の園長に就任いたしました多田美穂と申します。

職員、子ども達、保護者、園舎や設備、何もかもが初めてづくしのスタートで、私に務まるのかと不安で仕方ありませんでしたが、始まってしまえば子ども達との日々はあっという間に過ぎ、職員と共に試行錯誤を繰り返しながら邁進する毎日です。

北島町といえども、一步入ったところにある本園は、田んぼや畑に囲まれたのどかな田園風景が広がり、すぐ近くに旧吉野川が流れています。その立地を生かし、先日、園舎の向かいに借りた畑に子ども達とサツマイモ苗の植えつけを行いました。長雨が続きたいせいか、所々うまく育っていない物もあり「ああ、農家さんのようにはうまくいかないなあ…」と、諦めかけていたところ「ちょうど家にあつたから、歯抜けになっていたところにイモ苗挿してあるからねー」と、近所の方が声を掛けてくださいました。「キュウリやトマトがなりすぎて困るけん、もらって」と、度々、届けてくださる方も…。また、先日の七夕の際には、笹の調達に困っていることを保護者の方に伝え、と、「実家にあるから持って来てあげるよ。先生、何本いる？」と、数名の方が快く協力してくださいました。小規模園がゆえに、地域の方や保護者の支援が大変有難く、感謝の毎日です。今後も、いろいろな方に助けていただきながら、法人の理念でもある「地域に根差した子育て家庭にやさしい保育園」として、安心・安全はもとより、子ども達、



保護者や地域の方、職員、皆が主役となり、毎日ワクワク、笑顔と笑い声の絶えない保育園を目指したいと考えております。

まだまだ未熟ではございますが、園名に負けないように地域の一番星として輝ける園づくりに取り組んでまいりたいと思っておりますので、今後ともご指導の程どうぞよろしくお願いいたします。

すみれの花保育園

新居 由美



本年4月より、社会福祉法人はぐくみ会すみれの花保育園園長に就任いたしました、新居由美と申します。

主任保育士から園長に就任したことにより、今まで以上に一つ一つの責任の重さ、重大さを感じながら、身の引き締まる思いで園長職をこなしておりますが、信頼できる職員、理事や理事長にも、支えてもらいながら日々出来ることを頑張っている次第です。

さて、当園は定員150名の保育所として北島町で運営しており、幼児棟と乳児棟と建物を併設した保育所です。少し前の話となりますが、東京オリンピックの際には、聖火ランナーも当園の前を走り、園児・保護者・職員・地域住民と応援したことで、今まで以上に地域コミュニティが広がったように感じ、良い記念となりました。

当法人は、総合幼児教育研究会に加盟し、15年以上が経とうとしています。より良い保育の充実を図るため、子ども達の豊かな人間形成の重要な時期を整った環境のもと、健康と安全に配慮しながら生活習慣を身に付け、明るく積極的に「生きる力」をはぐくみ、集中力のある子どもに成長することを保育目標とし、様々な研修にも参加し、保育の質を高めるため日々研鑽しております。

また、新たな事業として本年度より、インクルーシブ事業をはじめました。インクルーシブと言っても、併設タイプではなく、園内の空きスペースを利用し、在園児に対して機能訓練や言語訓練などの療育を実施する新たな取り組みとなっています。



インクルーシブ事業を開始したことも踏まえ、今まで以上にすみれの花保育園を北島町内だけでなく、近隣市町村にも知ってもらえたかとは思いますが、子ども達を取り巻く環境は昨今、多種多様になってきております。

地域の方々に愛され、保護者の方が安心して保育園に預けていただけるよう、職員一同、保育に邁進してまいります。まだまだ、園長として未熟者ではございますので、皆様方からのご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

みどり保育園

板東 智昭



令和5年10月1日、社会福祉法人友愛福祉会みどり保育園（北島町）園長に就任いたしました。本園には、平成13年4月より勤務し、事務長、副園長を務めた後、園長への就任です。老人福祉関係からの転職でしたが、すぐに徳島県青年保育者連合会（当時：青年会議）にお誘いいただきました。そこで保育に関わることはもちろん、会計、制度等広く学ばせて頂き、今もお世話になっております。何よりの財産は仲間の存在です。いつもありがとうございます。

本園は、北島町の東、松茂町と隣接し、開園当初より両町から園児を受け入れています。風光明媚な住宅街に位置し、すぐ前には今切川が流れ、大きな船が往来し子ども達からも人気です。また、川沿いには土手も隣接され、安全で楽しいお散歩コースにもなっております。



今後社会は、少子高齢化や人口減少といった課題もあり、先を見据えた安定的な経営も求められます。

徳島県私立保育園連盟の諸先生方には、今後ともご指導を賜りたく存じます。そして、子ども達や保護者をはじめ、皆様が毎日笑顔で過ごせますよう祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

すみれキッズ

平松 しのぶ



本年4月より、大石前園長から引き継ぎ、社会福祉法人はぐくみ会すみれキッズ園長に就任いたしました平松しのぶと申します。

すみれの花保育園より異動して、園長という事もあり、場所も変わって職員も新たに、「私で大丈夫だろうか…」と不安でいっぱいでした。ですが、優しい職員に囲まれ、元気でいきいきとした子ども達と一緒に日々、頑張っています。

本園の特徴といたしまして、徳島県で唯一、すみれグループのみが、総合幼児教育研究会に加盟しており、0歳から日課活動や体育ローテーションをしています。

人の根幹の機能をはたかせることが可能な幼児期に「知・徳・体」の調和のとれた教育環境のもと、「動きとことばとリズム」を基調としたもっとも適切な経験を与え、活発な活動を繰り返し展開することで、明るく積極的に「生きる力」がはぐくまれ、集中力のある子どもに成長するよう促しています。

また、日課活動とは、子ども達の豊かな人間形成の重要な時期に、その教えのもと、整った環境で、無理強いすることなく遊びの一環として毎日行っているものです。その為、国旗や漢字カードなど、子どもの暗記力には本当に驚かされる事が度々です。

現在、畑には子ども達が植えた、きゅうり、なすび、おくら、ピーマンが元気に育ち水やりをしたり、収穫をしたりしています。



玄関では、メダカやカブトムシといった小動物を通じて、登降園の際、保護者と子どもが囲み、「今日は、元気に泳んぎよるな～」など会話も弾んでいます。メダカのエサやりも子ども達がしてくれて、日課活動以外にも、食育や命の大切さを知らせると共に、楽しい保育園生活がどのように送れるか、まず私が明るくニコニコと、職員、保護者、子ども達に寄り添いながら頑張っていきたいと思いますので、今後とも、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

くるみ保育園

廣瀬 寛修



本年4月より、社会福祉法人くるみ福祉会くるみ保育園園長に就任いたしました廣瀬寛修と申します。この度、園長となり、不安と重責に押しつぶされそうになりますが、前園長や職員仲間の支えと子ども達の元気な声や笑顔に助けられ、今私に出来ることを一生懸命やっっていこうと日々奮闘しています。

くるみ保育園は、今年度で50周年を迎えることになりました。沢山の卒園生を送り出し、卒園した子ども達が保育園に立ち寄ってくれた時は、「なつかしい」「鼓笛やみん



なでいっぱい歌を歌ったこと思い出す」などと思い出話を保育士と話したり在園している子ども達といっぱい遊んでくれたりとうれしい気持ちにさせてくれました。

これからもくるみ保育園の保育理念でもある、「和顔愛語」の精神をもってみんなが笑顔で生活し、子ども達に愛情いっぱいの関わりや言葉かけをしていきたいと思います。

また、保育園・家庭・地域が一つになり子どもの成長を地域全体で見守っていく体制を築き、保育の充実に取り組んでまいりたいと考えています。今後とも、ご指導の程よろしくお願いいたします。

島田認定こども園

廣谷 譲



この度、浦上前園長から引き継ぎ、4月から島田認定こども園の園長に就任いたしました廣谷 譲と申します。大学を卒業して以来、現場一筋で子ども達と充実した日々を過ごさせていただきました。前年度は、副園長をさせていただき、管理職としての仕事を学んでいながら時々、現場のクラスへ行っては子ども達と絵本を見たり、虫探しをしたりと楽しい毎日でしたが、最近はデスクワークが殆どで数多い書類に追われ、パソコンが苦手な自分は周りに助けをもらいながら仕事を頑張っています。忙しくてクラスへ遊びに行けない時は、子ども達から事務室に遊びに来てくれて「がんばれ～」と励まされています。



いつまでも子ども達の目線で会話をしたり、接したりできる園長先生でいたいと思います。

目まぐるしく変わっていく社会情勢や保育業界で環境の変化についていくのが精一杯の状況ではありますが、毎日が勉強、毎日が発見で日々精進したいと思います。子ども一人ひとりの幸せを願い、保護者の皆様とともに子ども達の成長を喜び合い地域の皆様に愛される園づくりに頑張っていきたいと思います。今後ともご指導のほど宜しく願いいたします。

はやし子ども園

百 有子



本年4月より、和田島福祉会はやし子ども園の園長に就任いたしました百有子と申します。私は、ご縁により令和4年4月から2年間副園長として本園に勤務させていただいていました。この度、園長ということで、大きな責任を感じているところです。

子ども達のかわいい笑顔と明るく元気な職員に助けられながら、毎日を過ごしております。長年、保育・教育に携わってきた経験を活かしながら、職員とともに安心・安全で楽しい子ども園をめざしていきたいと思っております。

本園は、保育所と幼稚園が統合し、はやし子ども園として開園されて5年目を迎えました。阿波市の西の端に位置し、自然豊かな環境のなかにあります。園の南側を見上げると、高越山がそびえ、北側には国の天然記念物阿波の土柱があります。保育室から見える園庭には、何十年もの間、子ども達を見守ってく



れた桜の木とくぬぎの木があり、季節によって様々な顔を見せてくれています。園のすぐ隣には、小学校があり、連携も盛んに行われています。また、地域の方々とのつながりも長年受け継がれています。このような環境のもとで、今のこの時期にしかできないことをたくさん経験できるように、子ども達とともに遊びを広げていきたいと思っております。そして、「地域に根ざした子育て家庭に優しい子ども園」の理念に沿って、保護者との連携を深めながら子ども達が毎日生き生きと園生活を送ることができるよう、これからも職員とともに努力してまいりたいと思っておりますので、皆様のご指導をよろしくお願いいたします。



いただきますを支えて



とくしま健祥会認定こども園 管理栄養士 島 和子



とくしま健祥会認定こども園は、四季を感じる里山をはじめ、たくさんの自然に囲まれています。里山では桑の実やすもも、すだち・柿・栗などたくさんの収穫体験をすることができます。また、地域の方に支えられて、じゃがいも掘りや田植え、稲刈り、干椎茸づくりなど様々な活動を体験することができ、食育活動にとっても恵まれている環境で子ども達は日々すくすくと成長しています。

園では、自分達で収穫した食物を使ってたくさんのクッキングも行っています。じゃがいもは、子ども達と相談してポテトチップスを作ることにしました。スライサーを使って緊張しながらスライスしていきます。ぽそっと「おかあさん、毎日大変やなあ」という声が聞こえ、おうちの方を思いやる気持ちが芽生えているのだなとうれしく感じました。油で揚げた瞬間の「じゅわ〜」という音を聞いて子ども達の目が輝き、「いいにおーい!」「はやくたべたいなー」とできあがり待ちきれません。できあがったポテトチップスを食べた子ども達からは、笑顔と自信があふれる様子が見られました。

園では「食に興味を持ってもらう」ことを大切に食育を行っていますが、活動で得られることはそれだけではありません。自分でできたという自信や相手を思いやる気持ちは、人が生きていくうえで大切な人と関わる力を養うことができます。人と「結びつく」ということを大切に、これからも食育活動に取り組んでいきたいです。



じゃがいもたくさんみつけたよ



お料理するって大変だね



いいにおいがしてきた!



みんなで食べるとおいしいね♪

(1面から続く)

地域の方とともに

園長 久米 多恵子

気延のもりの保育園は、石井町の南東部に位置し、雄大にそびえる気延山や田園に囲まれた自然ゆたかな場所にあります。平成30年4月に0歳～3歳までの園児90名定員で開園されました。園庭には、築山や芝生コーナーがあり、普段の遊びは勿論、運動会では子ども達が、元気いっぱい駆け回り、親子で楽しんでいます。

保育園のすぐ隣には、トトロの森のような小さな森と地元住民の方が運営している「ビオトープ気延の里」があります。ここには、地元の幼稚園児・小学生が多く訪れます。幼稚園児は、どんぐりや木の実を採りにきたり、小学生は学年に応じた森の探索や隣接する田んぼで田植えや稲刈りなどを地元住民の方と一緒に体験しています。保育園の卒園児も沢山おり、毎年大きく成長している姿を見ることができ嬉しく思っています。ビオトープの方は、保育園児にもカブトムシの幼虫やビオトープで採れた果物などを届けてくれたりします。こういった交流を通して私達は、子ども達の成長を、地域の方が常に温かく見守り、手助けしてくださっていると実感することができ感謝しています。

また、隣接する関連施設の養護老人ホーム仁寿園に毎年、敬老会の訪問・ハロウィーンでの仮装訪問等の交流を行っており、園児達を温かく迎え入れてくれています。

近年、社会や地域の方との交流が希薄になりがちな状況にありますが、地域の方・保護者の方と共に、限りない未来のある子ども達の成長を手助けしていけるような、保育を目指して頑張っていきたいと思っています。

(気延のもりの保育園)



園周辺風景



食育野菜作り



やさいスタンプ

高校ほか、学生の皆さんへ 保育園で働きますか？

フレッシュ新任保育士さんから

エクセレント羽ノ浦こども園 近藤 愛美

私は、小学校の頃に友人の妹と、かくれんぼやままごとなどをして一緒に遊んでいました。着替えさせたり、ミルクを飲ませたりと身の回りのお世話をすることが楽しく感じ、子ども達とかかわることのできる保育教諭になりたいと思いました。短大で2年間、保育について学び、保育教諭になることができました。

1年目は0歳児の担任になり、初めは新しいことばかりで右も左も分からず、戸惑うこともたくさんありました。大学で保育について勉強したものの保育教諭になって実際に子どもとかかわってみると、一人ひとりの対応が思うようにいかず、保育をする難しさを感じました。しかし、同じクラスの先生から、その子どもに合わせた保育の方法をアドバイスしていただきました。日々、自分なりに試行錯誤していると、一人ひとりのその子らしさが分かるようになってきて、保育教諭としての自信に繋がりました。

現在、2年目は昨年度と同様に0歳児の担任になりました。0歳児は、一番成長が分かりやすく昨日までできなかった事が次の日や1週間後にはできるようになっていたりして驚きと嬉しさでいっぱいです。これからも子ども達と一緒に笑顔で楽しい毎日を送り頑張っていきたいと思います。



—編集後記—

8月7日の立秋も過ぎ、暦の上では秋が始まっています。しかし、この夏は暑い、本当に真夏日が続き秋の訪れをほど遠く感じています。保育現場を預かる我々は、熱中症や感染症対策と子ども達の健康管理に心休まる日がありません。

さて、今年はパリオリンピックが開催され、選手達の活躍に一喜一憂いたしました。

また、パリオリンピックでの開会式には、初めての趣向が数多く取り入れられ、驚くばかりでした。保育に相通じるものがあり、考えさせられる開会式でもありました。こうでなければならぬものなどない、いかに柔軟にその時その時で取り組んでいくことが必要な事であることなど、保育の基本に出会ったような気がいたしました。代表選手達もこれまでの頑張りや努力、周りの激励や協力で参加し、結果はどうあれ最後までやり遂げておりました。その姿に感動したり涙したりと、様々な気持ちが交差いたしました。保育現場も同じであると思われます。子ども達が夢中になれる場、試行錯誤できる場、様々な気持ちや感情が湧き出る場、そして大人の見守りの中でそれは活動できる、そんな保育現場でありたいものと改めて思いました。

『私保連とくしま』も42号となり、今回も皆様のご協力で無事刊行することが出来ました。広報部もパリオリンピックではありませんが、柔軟に時代に添った内容に、必要とされるものになるようこれからも努力してまいります。今後も皆様からの様々なご意見・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(まつしげこども園 北濱 道子)